

茨城県城里町（国内 41 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 3 年 2 月 2 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、平野部につながる丘陵地の中腹に位置し、付近は杉林や雑木林、田畑に囲まれている。
- ② 農場から最も近いため池までは約 350m あり、調査時にはマガモ 7 羽が確認された。また、農場から約 1.3km の距離にある池ではマガモ 1 羽、カルガモ 41 羽が、約 5.0km の距離にある貯水池ではマガモ 414 羽、カルガモ 140 羽、キンクロハジロ 59 羽が確認された。
- ③ 当該農場には 5 棟のウィンドレス鶏舎があり、各棟は内部が壁で区分され、1 棟あたり 2 鶏舎となっていた。発生鶏舎は、5 棟のうち最も農場入口側に位置する棟にある鶏舎であり、発生時には、発生鶏舎がある棟のもう一方の鶏舎を除くすべての鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、発生鶏舎における 1 日あたりの死亡鶏は、1 月 12 日から 1 月 30 日まで 29~117 羽程度で推移していたとのこと。
- ② 1 月 31 日に、発生鶏舎で 66 羽の死亡鶏が確認され、このうち鶏舎奥側の 1 ケージで 4 羽がまとまって確認されていたが、この他の死亡鶏はばらばらに確認されていたことから家畜保健衛生所への通報には至らなかったとのこと。
- ③ 2 月 1 日に、発生鶏舎で 171 羽の死亡が確認され、1 月 31 日に 4 羽の死亡鶏がまとまって確認された辺りを中心に、複数羽がまとまって死亡しているケージが複数箇所認められたことから、通報したとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では 43 名の専属の従業員のうち 11 名が鶏舎管理を担当していた。鶏舎ごとに担当者が決まっており、基本的に 1 名が発生鶏舎の管理に携わっていたが、担当従業員が休みの場合等、他の従業員が発生鶏舎の管理を行うことがあるとのこと。飼養管理者によると、毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏の回収を行っていたとのこと。
- ② 鶏舎管理以外の 32 名は、集卵作業や鶏糞処理等にそれぞれ従事しているとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 飼養管理者によると、従業員は農場に入る際は、手指の消毒を実施し、農場専用の作業着及び長靴を着用していた。また、鶏舎に入る際は、鶏舎専用の作業着、長靴及び手袋を着用していたとのこと。ただし、死亡鶏の搬出や除糞ベルトのスイッチを入れるため、鶏舎奥側の通用口から出入りすることがあったが、その際は、長靴の交換はせず、踏み込み消毒を実施し、出入りしていたとのこと。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低い状況であった。
- ③ 飼養鶏への給与水は地下水を使用しており、消毒して給水している。
- ④ 飼養管理者によると、発生鶏舎がある棟のもう一方の鶏舎で 1 月 20 日から 1 月 22 日にかけて、廃鶏の出荷を行ったとのこと。出荷に伴う捕鳥作業は業者が行い、廃鶏は鶏舎奥側の搬入出口から搬出されていた。捕鳥作業者は、農場で用意した作業着、持参の手袋・長靴を着用し、踏み込み消毒を実施し、搬入出口から出入りして

いたとのこと。

- ⑤ 発生鶏舎の鶏糞は除糞ベルト、スクレーパー及びベルトコンベアで鶏舎から堆肥舎まで直接運搬され、堆肥化している。なお、堆肥舎には建屋があった。
- ⑥ 飼養管理者によると、健康観察時に回収した死亡鶏は堆肥舎まで運搬して、死鶏処理装置で細切した後、鶏糞とともに堆肥化しているとのこと。
- ⑦ 飼養管理者によると、発生鶏舎を含む全鶏舎は、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに鶏舎内の清掃・消毒を行っているとのこと。
- ⑧ 飼養管理者によると、普段は鶏舎周辺に消石灰の散布を行っていたとのこと。
- ⑨ 飼養管理者によると、車両が農場敷地内に入出入りする際、入口に設置された自動消毒ゲートによる消毒を行っているとのこと。
- ⑩ 発生鶏舎の鶏舎構造は、鶏舎奥側の壁面及び天井裏に設置された換気扇から排気し、入口側及び側面の通気口から給気するタイプの鶏舎であった。入口側の通気口及び換気扇の外側には開閉可能な板が設置されていた。側面の通気口の外側には金網が設置されていた。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、農場敷地内ではネコやカラス、セキレイ、スズメ等が確認されることがあるとのことであり、調査時にも、農場敷地内でカラスやハクセキレイが確認され、鶏舎外周には野鳥の糞が複数認められた。
- ② 飼養管理者によると、鶏舎内でネズミを見かけることがあるとのことであり、定期的にネズミ対策（殺鼠剤及び粘着シートの設置）を実施しているとのこと。
- ③ 鶏舎から集卵施設までの集卵ベルトの経路にはすべてカバーがされていたが、一部が剥がれており野生動物が侵入可能な箇所があった。
- ④ 鶏舎から堆肥舎まで鶏糞を運搬するベルトコンベアの経路にはすべてカバーがされていたが、一部が剥がれており野生動物が侵入可能な箇所があった。